

映像と印刷教材の組み合わせに関する比較研究 —生化学の場合—

第4セッション

イギリスの公開大学のテレビ番組と大阪大学蛋白質研究所の放送公開講座番組を視聴し、両大学のテキストを比較参照しつつ、両者の目的、対象、手法等について、阪大の企画主宰者、映像及びテキストの取りすゝめにあたられた教官及びそれぞれの制作者から経験を提示願い、これらをもとに討議をすゝめた。

司会（田丸東京大学教授） 第4セッション、「映像と印刷教材の組み合わせに関する比較研究」——生化学の場合——を開かせていただきます。

ここに、真ん中にいらっしゃる5人の方は、生化学のご専門の方と承っておりますので、いろいろ含蓄深いお話を伺えるんじゃないかと思います。

はじめに、英国の公開大学の番組、続きまして、大阪大学の放送公開講座の「タンパク質」という第7回のビデオ、その2つを最初にごらんいただきます。次に若松先生からのご説明、それから、大阪大学でそういうフィルムをおつくりになったご経験に基づきまして、大阪大学の関係、あるいは化学同人の印刷物関係の方、またテレビの方からご説明をいただきまして、それに

続きまして堀江さんから問題提起ということとでいろいろお話しいただきたいと思います。それに続いて質疑応答をしていただければ幸いかと思います。

最初に、英国の公開大学のフィルムからごらんいただきたいと思います。

番組視聴

公開大学：Differential Gene

Expression

大阪大学：タンパク質・第7回

司会 イギリスの公開大学のビデオと、大阪大学の蛋白質研究所でおつくりになったビデオをごらんいただいたわけですが、これも、これを一応のたたき台というか、例としていろいろご議論いただければ幸いと

思います。

まずその二つのビデオの背景につきまして、放送教育開発センターの若松先生からご説明いただきまして、それから、大阪大学の先生方から、つくられた立場の側からということでお話しいただきます。つぎに

問題提起として堀江部長にお話しただい

て、あと矢部先生に一言加えていただく。大体1時間ぐらいの予定で問題提起をさせていただきたい。そのうえで、皆さんのいろいろな貴重など意見を伺わせていただきたいと思います。

両番組の背景

若松（放送教育開発センター） お手元の資料をごらんいただきたいと思います。（注2）

この二つの番組につきまして、お手元の資料には「日英プログラムの対比」というような表題でちょっとしたメモを差し上げておりますが、私は本日の討論の参考といたしまして、この2つのプログラムの客観的な事柄につきまして簡単にご説明させていただきたいと思います。

まず両プログラムの構成であります。英国の公開大学の方は、〈生物学「形態と機能」〉のコースです。これは全体が32のユニットからなっておりまして、ただいまごらんになりましたのは、32のユニットの中の第12回であります。時間は30分弱です。

その水準ですが、非常にアカデミックな内容でして、その程度は公開大学のセカンド・レベルです。この生物学のコースはフルクレジット、いわゆる1単位ということです。ただ、公開大学での1単位と申しますのは、ご案内のように公開大学は、全部で、ファウンデーション（基礎コース）を2つ、セカンド・レベルを4つ取れば卒業できる。6つのクレジットで卒業できますので、相当量の内容が集約されております。このフルクレジットは、アメリカあるいはわが国の単位に換算いたしますと大体15単位くらいに当たる。したがって、映像は、大体2分の1単位ぐらゐに相当するという内容です。

大阪大学の方につきましては、「タンパク質と脚線美」というきょうの映像は13回のTVプログラムの第7回でありまして、45分弱です。このプログラムは、全体で、単位にいたしますと大体2単位相当でありまして、一般高卒以上の社会